
小説家になろうで戦う。

羽根羅

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

小説家になろうで戦う。

【Zコード】

Z3510BA

【作者名】

羽根羅

【あらすじ】

うんざりしないか。異世界、転生、便利なだけの魔法に主人公がチートで最強…。

羽根羅はうんざりだ。

善かれ悪しかれ評価されるべき作品達は他にも存在する。貴方はなにか思うところはないか。

意志。

あなたはむしゃくしゃしないのだね？
羽根羅はもうイライラする。

ジャンルが
ファンタジー。
SF
で、
異世界。
ネットゲーム。MMO?
転生。
魔法。
主人公最強。
チート。

なら人気が取れるっていうのが。
イライラもするし、不思議でならない。

にならうのランキングはこいつらで埋め尽くされている。
1～100位まであって、主だって見られるジャンルが一種類。内
容やタグはほとんどが数種で共通を持つ。

違うもあるよ。ちらほら。

もちろん、そうだとしたって上位まで来るとへらへら書いた訳じゃ

無いのだつてわかる。ランキングされる時点でもともな作品だらう。あ、全部は読んでないよ、それどころか半分も。

でもさ、やっぱり、なんか変だよ。

だつてそれ以外でもつと良い作品つて無いのかな。あるんじやないかな。

独創性つてなんですかつて顔した作品が、他の良作を潰してるんじやないのかな。

羽根羅の書いてるのは良作と違つけど。

手垢で脂ぎってるみたいなのを題材に書く感覺もイマイチ分からないけど、それより読者は見飽きないのかなつて思う。創作だかなんだか分からないような、少なくともオリジナルと言うのが憚られるような作品のなにが面白いんだろう。いや、読めば面白いんだけどどれも似たり寄つたりで、斬新かと思われる設定だつて結局どこか似ている訳で。

飽きないのかな。

それこそ、

「ファンタジーで体感系のネトゲに転生しちやつて主人公最強」つて設定で書けば羽根羅でも人気取れるよ。絶対。

ランクインするかは分からぬいけどユニークやが馬鹿になるよ。うなぎ登り。

連載で、五回も六回も話を書けば間違いない。

まあこれは、皆知ってる現状で、になろうの読者が求めているものが、『実際にはまず有り得ない、「こうだつたらなー』』っていう願望、妄想を形にした』小説だといふことの現れなんだらう。

だから仕方ないし、他のサイトに行けば解決できる訳だし（他がどうだかは知らないけど）、：：でも、になろうでも作品を読んで貰いたい人が、ありふれたそいつらとその読者に潰されているのはやっぱり面白くない。。

実力があろうとなかろうと、評価講評を貰う機会は平等であつてほしい。

それが有り得なくとも、できるだけそれに近づいてほしい。

そう思つるのはこの羽根羅だけであらうか。
決してそうでは無いのではないだろうか。

個人で何ができるでも無いし、集まつてもそれは同じかもしれない。
それでも声が聞きたい。あなたの考えが。

魔法（前書き）

魔法しか存在しない場合の話。
科学もともにある場合を除く。

魔法と言つても実在しないものなので様々な解釈ができる。が、どのような解釈をすれば、魔法以外の事柄を絡めて考えなければならないと思つ。

例えば、勉強すれば誰でも使える設定とか、才能や血筋によつて魔法の有無や優劣が決まる設定。

ここで、それを利用した犯罪や犯罪の取り締まり、予防は必須だと思つ。

その人物達の職業はどれだけ幅があり、また魔法が使えなくとも関係する仕事なども。

端は戦争から政治に衣食住、果ては虫や微生物、広げれば地球だ宇宙だといつ事まで考え直せると思つ。

魔法という概念を持つとして考え直せば、科学的なものは一切作り直せるだろう。もちろん面倒だから、小説に関わつて来る事で十分だろうけど。必要なものは作品によつて違うだろうが、犯罪、政治、広くは文明、歴史。まず絶対関わりが出るものではないだろうか。

あんまり深く考えてなさそうな、『便利な魔法』を見るとなんだかなあと感じる。ちょっと枷をつけて満足したようなのは、むしろ見飽きた。

仮にここで、魔法が科学の代わりに発展していたらと考へると、原始時代は何も変化が無い。

まず変わるのは、ここまで人類が歩んできた歴史だ。

想像しやすいのは戦争だろうか。

魔法によって兵器が造られる。

兵士はどういう装備なのか。白兵戦が無くなるわけでも無いだろうし、大して変わらないというのも有り得る。武器は多少変わりそうだ。

もちろんそれ以外にも。

次に主人公等の生活。歴史が変われば変化が当然だ。

例えば、科学技術により造られた洗濯機。

魔法技術で、洗う、を重視して開発をしたらどうなるだろう。

いちいち魔法を使わずとも、装置を造つて誰でも手軽に使える商品にするには？

学生なら、学校。

魔法を教える学校が、科学世界の理系の学校だとするならそれは専門学校では？

魔法世界での魔法とは、そもそも、『使う』ものでは無いのでは？

『科学を使う』という表現を私は知らない。

その世界の住人は、

「ああー、こんな時に科学が使えたらなあ」

と、科学の事を科学世界でいう魔法のように便利なものだと思つてゐるのでは？

私はここまで来てやつと、魔法とはなんだらへと、まさしくえはじめた。

一度曰だがこれは仮定の話だ。魔法は実在しない。便利なだけの魔法をおかしいと感じ指摘しようが、「魔法だから」という言い訳で全てまかり通る。

だが改めて考えてもみてほしい。

魔法とはなにで、その存在は世界觀にどうこう影響を及ぼすものなのかを。

美少女。

美少女ハーレムについて。

変だ。変、不自然。

ハーレムの中心人物像がおかしい。

ハーレムとは、人が人を好きになつてゐるという事だ。
お金で作るハーレムはなかなか見ないので、ヒロインが主人公に惹かれるという前提で話す。

まずハーレム云々以前に、人が人を好きになるというのは、ヒロインが主人公に魅力を感じるということだ。

一人が一人を好きになるならわかる。趣味嗜好はだれしも存在して、ヒロインのそれに合致するものを主人公が持ち合わせている。これは普通だ。

しかし一人目がいれば二人目の好みが存在し、三人いれば三人目のそれが存在する。

つまり、恋愛が多いなら多い分だけ魅力を備えたキャラになる。これは主人公に限らない。

魅力も無い人間を誰が好きになる？

一つ、ネットゲジジャンルの小説について噛み合わせよう。

いいだろうが、あくまでゲームだ。画面の向こうの彼女だ。体感型

にしても、ゲームが終われば現実が待つていて。なのに、そこで眞剣に恋愛をする女性はいるだろうか。現実を持つていて女性が、ネットゲーム越しに恋をするか？ してもお遊びのようなもの。本気になつても、まともに壁の向こうの相手を考えたらまずゲームから話が出る。（それはそれで小説としては発展しそうだ。）

ゲームの中だけの話なら、恋愛中マウスをクリックする人間、体感型でもその操作をする人間の頭の中はどこか冷静であるだろう。だつて虚構の恋だもの。むなしい恋愛である。ましてやハーレム？ さてどうなるやら。

キャラを操作している人が存在しないゲームでの登場人物をNPCと呼ぶが、人形であるNPC相手に恋愛するならギャルゲやエロゲと大差ない。

二つ。ネット以外でのハーレムについて考える。

一から書こうと完成した状態から書こうと現実を生きる者達で作るハーレム。

主人公に魅力を持たせ描写して、やつと一人に好かれる要素ができる。

まさか犬猫畜生のように、個体として強いという魅力に皆が惹かれるとか言うなら何も言う事はない。

だが人間はそもそもいかない。何か一つの魅力を魅力と理解して多数がそれに惹かれる、登場人物の思考基準が固定され宗教臭さが出来る。（「強い」というのが大多数にとって魅力でも、それが基準になるかは人それぞれだから）

つまり、主人公は長所や短所を含めた異性を引き付ける魅力を多数兼ね備えてやつとハーレムへの道が見えるのだとわたしは思う。

やのところ、いつも軽薄な話が多い気がしてならない。

美少女。（後書き）

削りすぎて語り足りない。
読み直してみれば、文と文のつながりが気に食わない。
頑張ろう。

最強

最強とセットでついて来るのは、最強さん単体では打ち破れないような敵である。数だつたり、頭脳だつたり。最強さんが想定しないことだつたり、その盲点をついたり。時には心の弱さであつたり。最強で話を書く欠点に、主人公が成長しない点がある。成長しても意味がないからそうなるのだ。

「最強」の単語が出てくる話は何らかの形で戦闘するシーンがあるのだろう。敵に勝つと分かりオチの見えている、つまり最初からネタバレの状態も欠点になりうる。

てつぺんにいる「天下の最強さん」をひたすら書くだけの小説は、主人公になりきつて悦に浸るだけのもの。妄想を実現、手助けする道具だ。

作品を通しての目的（伝えたいこと、えがきたい人物像や人間関係）があるならそれは素敵なことだが、どれだけがそれを持たないでごまかしている小説だろうか。

最強というステータスを持つ者は無意識のうちに慢心を抱える。また、そのステータスを努力でない才能や何かで得たならば「浮かれた」も問題として浮かぶ。産まれながらの才能である場合、人格も確かにてしまふのは出来過ぎだ。

天から降つて来たように突然に与えられたなら、どうしてそれを正しく扱えよう。能力的にも心身としても。

人は想像の中でもくらい強くありたいと願うようだ。

世界観とその物語の中に入り込んだときに出来ることを、主人公をもつて書けば自慰の肴はもうそれでよい。

健全な官能小説とは、矛盾しているがこれのことではないか。そういう意味で異世界やハーレムに通じ、タグに仲良く並んでいるのか。チートについてもそうだ。

チート。

日本では、ゲームなりずるやいんちきとして使われる単語だ。日常においては頭抜けて力を發揮する人物を指したりもする。

小説家になろうにおいてはまた違い、「最強」の上を表すようだ。
「絶対」と表現できるかもしない。

これが出てくる作品には明確な終わりがない。

「最強さん」が「最強から一番田舎さん」と争う結果、僅差で最強かもしれないが「絶対さん」は違う。どんな課題が発生しそうがあつさり解決する力を有する。

最強を超えて話の起伏が無い。あつてもワンパターンの波を繰り返している。

話が膨らまない。まとめる内容が無いから終わらない。

小説において、強いということは読んでいて爽快かもしない。
だが「最強」や「絶対」が素晴らしいのは現実でだけだ。それらがどんなに田に素敵に映つても、はなから豊かな物語は乏しい小説である。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3510ba/>

小説家になろうで戦う。

2012年1月14日20時58分発行